

# 新小岩支部大会

# 35体制合理化と才2マル生攻撃の尖兵=「本部」派を解体し闘う

三里塚・ジェット闘争貫徹! 「国鉄35万人体制」粉碎!

【新小岩支部通信員発】 新小岩支部は、十二月七日十二時三十分より葛飾区講習室において第四回支部定期大会を開催しました。  
来賓として、葛飾区労協鈴木事務局次長、労金市川支店長川口氏を迎え、本部からは関川委員長、中野書記長、関、森内両特執が参加し、向う一年間の闘う方針と財政を確立し、八二年春にも予想される小名木川駅構内入換の外託を断固として粉碎していく決意を全体で打ち固めました。

「激化する合理化・第二マル生の一体化した攻撃を打ちくだそう」  
松崎支部長あいさつ

大会は議長に内藤代議員を選出し、松崎支部長より「この一年間は闘いに次ぐ闘いであったが、この間のご協力に対して感謝し、国鉄35万人体制の具体的提案としての検修民託と、検修体制の全面的見直しをはじめ、小名木川民託、貨物列車の削減、国会の論議と合せての「職員管理委員会」の設置など、「合理化と職場管理は車の両輪であり一体として進める」という基本的な考え方からして、す

「結成の初心に立ちかえり、全国へ闘いをおし広げよう」  
関川委員長が激励

本部を代表して、関川委員長より「この一年間の諸行動を見ると、あたり前に闘えない労働組合が多くなってきている現状にあるとき、労働組合とは何をすべきかという原則を追求して闘ってきた。いま、とりまく情勢のなかで右翼労働「統一」は労働組合を戦争に協力させるものであり、絶対に粉砕しなければならぬ。国会の中で民社党などを使って国鉄の処分が段下して軽くなっているのは問題

国鉄35万人体制合理化の一方の軸、貨物合理化の激しい攻撃と対決して、新小岩支部151名は団結固く闘っている。(挨拶に立つ松崎支部長)



でにマル生の再現を策動している。こうした情勢の中で、当局、権力と一体となって組織破壊攻撃をかけてきている動労「本部」の手先がわが新小岩に居るとい認識をもってほしい。労働「統一」問題も身近なものとしてとらえてほしい」というあいさつがなされました。  
つづいて、葛飾区労協からは「地域の闘いに対するお礼と35万人体制攻撃を受ける中で未組織労働者に対してどう連帯していくのかさらに地域共闘へ力を出してほしい」とのべられ、労金市川支店からも挨拶を受けました。

だ、などということが宣伝されているが、われわれが永年の闘いを通じてかちとってきた現場協約・協定を破壊するやり方であり許すことはできない。動労千葉結成の初心に立ち返って今こそ全国にむかって大胆に闘いを推し広げていこう」と決意を込めたあいさつがなされました。

「貨物合理化・35体制攻撃」等に鋭い危機意識と関心

運動方針の審議では、経過も含めて活発な討論がなされ、特に、貨物合理化・35万人体制合理化に関する高い関心が集中した。その主な発言は「勝浦転勤者の今後の

合理化・第二マル生の水先案内人「本部」派を解体  
・一掃するぞ

見通しと枠の拡大、EC転換未了者の扱い」「構内職の待遇改善」「一般採と予科の賃金格差の解消」「検査・検修分科の合同と格差」「五十三年一般採入園に伴う問題」「特退補充について」「支援基金の取り組み」「賃金配分の問題点」などが出され、本部、支部執行部から答弁がなされて運動方針を満場一致で決定しました。

動労「本部」新小岩支部を名乗りながら、現場生産点で支部大会を開くこともできない彼等とは対照的に、激動する八〇年代軍事大国化と改憲攻撃の強まりと軌を一にした、「職場規律の厳正」を大声で叫ぶ国鉄当局、そしてその水先案内人として立ちふるまっているひとにぎりの「本部」派の姿勢を見ると、闘いとった支部定期大会の意義は極めて大きいと言えます。  
大会は最後に、スローガンを採択し三里塚を基軸に闘い抜くことを確認して、組合歌合唱、松崎支部長の団結ガンパローで大会を終了しました。